

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400153
法人名	株式会社ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター北九州神幸 ユニット名 小文字
所在地	福岡県北九州市小倉北区神幸町3番29号
自己評価作成日	平成24年7月

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年8月2日	評価結果確定日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個々の介護計画に基づいた支援(リハビリ・歩行訓練・排泄管理等)をしている。入居者様とご家族との関わり方を大切にし、ご家族も参加していただけるような行事も企画、共に楽しい思い出となるよう心掛けている。入居者様が安全で安心な生活ができるように医療連携を図り、主治医や訪問看護との連絡を密にしている。職員が明るく元気に入居者様に接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国的な事業展開を図る母体法人のスケールメリットは、研修体制やマニュアルの充実、蓄積されたノウハウの共有等、様々な面で活かされている。また、法人独自のキャリアアップ制度もシステム化されており、職員のステップアップやモチベーションの確保を、サービスの質の向上に結び付けるべく取り組んでいる。開設以来、継続して働きかけを行ってきた地域との関係性についても、隣接する保育園との交流や自治会への加入をはじめ、運営推進会議への地域からの参加も充実してきている。入居者の方々と家族との関係性を大切にし、医療との連携体制の構築、支援の根拠となる情報共有や介護計画への反映を通じて、本人、家族の安心できる環境づくりが行われている。今後も、入居者本位の関わり方の継続と、地域の中での存在の高まりが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の「社是」や「経営理念」は入社時の研修に於いて学び、毎日の朝礼・申し送り・会議等で唱和し、実践につなげている。	法人としての「社是」や「経営理念」のもとに、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた「私たちの7つの心得」を掲げており、日々の朝礼等を通じて、職員に浸透している。コンプライアンスカードを職員一人一人が携帯し、毎月の会議の前に必ず唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の保育所とは年8回程交流の機会を持つ事が出来ている。今年から町内会にも加入し、地域の一員としての立場が出来た。	これまでの継続した取り組みが実を結び、町内会に加入している。隣接する保育園との相互の交流は定例化しており、手作りの御神輿を担ぎホームを訪ねてくれたり、肩もみ、手遊び等、ふれあいの機会もある。また、ホームの敷地内の畑を貸し出し、さつま芋の収穫等を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まず地域の方が運営推進会議への出席することと働きかけを行い、民生委員さんの出席を得られた。これからも地域の方々に理解や支援をお願いしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月(年6回)の開催を確実にし、サービスの実際、評価への取り組みや状況等について報告や話し合いを行い、ご家族や他の参加者の意見をサービス向上に活かしている。	自治会長、隣接保育園園長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員等の参加を得て、定期開催されている。ホームからの状況報告に加え、地域包括支援センターより、「熱中症」や「食中毒」などの情報提供を受け、資料を配布する等の取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携をとり、情報の共有・相談・意見の交換等を行っている。	地域包括支援センターとは、日常的に連絡や相談を行い、情報の共有と連携に努めている。行政担当者とは、災害対策や空き情報等について、法人としての連携も活かしながら、意見交換や情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修やホーム内での勉強会を通じて身体拘束について学び、身体拘束をしない介護の実践に努めている。	月例の管理者会議や、ホーム内の勉強会等を通じて、職員の意識や理解を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、言葉による抑制についても、職員間で振り返る機会を持ちながら、共通認識を図っている。玄関は、夜間帯のみ施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やホーム内での勉強会で高齢者虐待について学び、ニチイ学館の高齢者虐待防止スローガンである、虐待を「しない・させない・見逃さない」を日々の介護で実践している。		

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修やホームでの勉強会で権利擁護・成年後見人制度について学んでいる。必要性があれば活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を活用している方もおり、マニュアルや資料が整備されている。社内研修が充実しており、権利擁護や成年後見制度について、すべての職員に研修機会がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際に必ず書面にてご家族に対して十分な説明を行い、理解を得た上で同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。運営会議に於いてご家族から出た意見や要望も会議等で職員に伝え運営に反映している。	運営推進会議会議の中で出された意見や提案は、議事録にしてすべての家族に伝えている。また、日常の来訪時の機会も捉え、意見や要望の収集に努めている。職員会議において情報共有や検討が行われ、運営への反映に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・ユニット会議に於いての職員からの意見や提案を運営に反映させている。また定期的に個人面談を行い職員の意見の収集に努めている。	全体会議の中で、備品の不足や介護用品についての要望などがよせられ、検討、反映されている。個々の意見や要望については、個人面談を行い、意見の収集と解決に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得・キャリアアップ制度にて職員の努力や実績が給与に反映するようになっており、各自が向上心を持って働ける職場環境になっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては性別や年齢等による排除は行っていない。採用後も研修や資格の取得、キャリアアップ制度等で能力を発揮し、向上心を持って働ける職場環境になっている。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。現在、10代から60代までの職員が勤務している。採用後に資格の取得を保証し、会社独自にキャリアアップ制度を設け、介護職としてのスキルアップと意欲の向上に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修にて人権教育を行っており、入居者一人ひとりの人権を尊重した介護を実践している。	人権教育については、マニュアルを作成し、法人として人権教育、啓発に努めている。コンプライアンスカードを各職員が携行し、会議の際には唱和も実施されている。	

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外研修へも希望者を募ったりして積極的に参加出来るようシフトの調整を図り、勉強できる環境づくりに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2度同業者と交流する場があり、管理者・ケアマネジャーが参加し情報交換を行えるが、他の職員の参加は得られていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行うアセスメントはセンター方式を活用し、ご本人・ご家族からの意見や要望を取り入れ、安全で安心な生活を送れるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族との面談の中で、ご家族が抱えている問題・要望等に耳を傾け、信頼関係を築くよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談で必要としている支援内容を把握した上で介護計画書を作成し、それに基づいた対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームが一つの家であり、入居者様と職員がお互いに理解し合える家族の様な関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族の関わりを大切にすると共に、協力して入居者様を支えるように連絡・報告を行っており、また、ご家族にも参加していただける行事も企画している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの大きな行事にご家族にも参加していただくように案内をしている。また、行きつけの美容室を利用するなど支援に努めている。	行きつけの美容院の利用は、家族の協力も得ながら支援している。家族との交流の機会を多く企画したり、友人、知人との連絡や訪問を歓迎し、関係性の継続に向けた支援を行っている。	

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握した上で座席を考え、一人ひとりが孤立せずに支え合う関係を築く支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係性を大切にする為、行事への参加の声掛けや、必要に応じてご家族からの相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより入居者様の思いや希望を把握し、支援を行っている。困難な場合は会議等でその方が今何を必要としているかを話し合い、介護計画を作成している。	家族の協力も得ながら、センター方式を活用した情報収集や、日常の中での言葉や心情の変化を職員間で共有し、思いや意向の把握や実現に向けた取り組み、介護計画への反映に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握し、入居後も毎日の生活の中からそれぞれの暮らしの経過把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で心身の状態の様子観察し、申し送りにて情報把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議等でのカンファレンスやご家族からの要望等、主治医等からの意見を反映させ現状に即した介護計画を作成している。	日常生活支援ノートや経過記録、アクティビティ計画書等、日々の様子が詳細に記録されており、介護計画作成にも活かされている。家族からの要望や主治医の方針なども反映されており、柔軟に対応ができ、現状に即したものとなっている。	介護計画の中に、本人及び家族の役割等、生活に根ざした機能活用についても、明確化されることを期待します。
29		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子や支援内容は個別的に記録として残している。その内容情報は職員が把握、共有しながら実践、介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、主治医以外の通院等の支援など柔軟に対応したり、定期的な歯科往診や医療連携体制による訪問看護で健康管理を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する保育所の園児との交流を年8回程持つことで、明るい笑顔を見ることが出来る。自治会長さんが届けてくれる毎月の広報誌に目を通す入居者様もいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は協力医に代わっていただくようにしているが、ご本人やご家族の意向でこれまでのかかりつけ医を利用している方がいる。そのかかりつけ医やホームの協力医との情報交換を密に行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医や協力医との連絡票を作成し、情報交換を密にし、緊急対応や適切な医療に繋げている。家族の依頼があれば、受診同行にも対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制による訪問看護師に入居者様の状態や気づきを伝えて相談し、入居者様が安全で安心な生活が出来るよう、また、適切な受診等がうけられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に介護サマリーを提出し、医療連携室や病院関係者とも情報交換・相談を行い、退院もスムーズに出来るよう密に連絡をするように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の体制や看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご家族の意向に沿った支援が出来るよう努めている。	入居時に、重度化した場合の支援体制や味取に関する指針を説明し、意向確認及び同意を得ている。これまでは、本人、家族の意向に沿い、ホームでの看取りも行われている。家族や医療関係者と方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿った社内研修やホームでの勉強会を行いすべての職員が確認している。		

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を実施しており、そのうち1回は消防隊からの指導を受けている。	消防の立会いも含め、年2回、夜間帯も想定した避難訓練を実施している。これまでに、運営推進会議後の避難訓練を実施し、家族や地域包括支援センター職員の参加を得たこともある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように社内研修やホームでの勉強会で指導、実践している。	特に不用意な言葉使いについては、話し合いの中で振り返りの機会を持ち、人格やプライバシーを損ねるものとなっていないか検討している。「ちょっと待ってください」の一言で、どのように受け取るか、それぞれの立場に立ち、理解し、改善に努めている。コンプライアンスカードを職員個々が携行している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できるような声掛けや働きかけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れに沿って支援しているが、その時々のご本人のペースに合わせて、外出や居室で過ごされるなど希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。また、ご家族と一緒に美容室に行かれる方もいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事がより楽しくなるように、一人ひとりの好みを把握し工夫をし、調理をしている。準備や後片付けも一緒に行っている。時には外食をしたり、お弁当を頼んだりもしている。	法人からの献立表をもとに、職員が交代で調理を担当している。時には外食や配達のお弁当なども取り入れ、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。入居者の方々も、配膳や後片付け、テーブル拭きなどを、役割として担っている。当日は、BGMにカーペンターズが流れ、賑やかな雰囲気であった。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	会社からのレシピを参考にして調理している。入居者様の状態に合った食事形態にもしており、水分摂取はチェック表を用いて一日の水分量が確保出来るようにしている。		

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは出来る限りご本人にいただき、出来ない所を職員が介助し清潔を保持している。定期的に訪問歯科の利用により、口腔内の治療や管理を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄状況・排泄パターンを把握し、定期的に排泄介助を実施している。出来る限りオムツをしない取り組みをしている。	個別の排泄状況やパターンの把握に努め、トイレでの排泄を基本とし、排泄の自立に向けた支援を行っている。個別の状況や排泄用品を検討し、必要な支援を行い、出来る限りおむつに頼らない支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主食に寒天(マンナンヒカリ)を入れる等食事内容に工夫し、便秘の方が改善された実績があり、今も実践している。その他水分摂取の確認、運動への参加などで、便秘の予防をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を週3回、午後からと設定しているが、入居者様の希望や状況に応じて入浴やシャワー浴が出来るようにしている。	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行い、希望や状況にあわせて、柔軟な対応に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況に応じて休息が取れるように支援している。また、夜間に気持ちよく眠れるように日中にレクリエーションや運動を多く取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服薬している薬は説明書にて確認、理解している。また、薬剤師居宅管理指導を契約しており、薬の管理・指導もある。症状の変化があった場合は主治医に相談・確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能を生活の中で活かせ、役割を持っていただくよう掃除・洗濯物たたみ・食器拭き等をしていただいている。 歌の好きな方にはレクリエーションの時に大いに発揮していただく声掛けを行っている。		

福岡県 ニチイケアセンター北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等ご本人の希望に沿った支援に努めている。また、ご家族参加の外出も企画し、実施している。	1階のテラスでは、日課としてラジオ体操が行われている。近くのスーパーやデパートでの買い物、散歩など、本人の希望の実現に努めている。敷地内で野菜を育てており、水やりや収穫など行っている。市の福祉バスを利用し、市内の名所や植物園、公園等に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の管理はしていないが、外出時等でご本人が購入したい物をお小遣いの中から支払いをしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様がご家族等に電話をしたり、手紙を書くことに希望があればその都度支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室バリアフリーになっており、照明は間接照明を取り入れている。適度な温度調整を心掛けており、空気清浄機を設置。加湿器も季節によっては使用している。季節感は活け花や担当職員による壁紙・室内の飾り付けで、心地よく過ごせるように工夫している。	季節感を感じられるように、季節にあわせて生け花や植木鉢を配している。訪問時には、天井にカラフルな提灯やビーチボールが飾り付けられ、明るく楽しい夏の雰囲気を作り出していた。和室スペースやソファの設置等、くつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	すべて個室であり、入居者様は自由にその居室で過ごすことができる。また、気の合った方たちが会話できるように座席を気風している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様が慣れ親しんだ家具や寝具を入居時に搬入、ご本人が今までと同じ環境で過ごせるようにしていただいている。	大切な物や使い慣れた家具等が持ち込まれ、安心して、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、入居者様が安全で自立した生活を出来る限り送れるようにしている。		